

歳時記もどき

見「歳時記」風の体裁の隨筆を綴つてみようという突飛なア
イデアが閃いた。

豊 泉 清

五月雨や大河を前に家二軒
(蕪村)
鶯の身を逆さまに初音かな
(其角)
これがまあ終の栖か雪五尺
(二茶)
行水の捨て所なき虫の声
(鬼貫)
梅一輪一輪ほどの暖かさ
(嵐雪)
古池や蛙飛び込む水の音
(芭蕉)

私は俳句の門外漢だが、学生時代に国語の授業で教わった
と思われる江戸時代の俳句が何句か記憶に残っている。五七
五という定型で、季語を詠み込むという俳句の規則のイロハ
も習つた。また季語に例句を添えて解説した「歳時記」とい
う書物の名称も知つてゐるが、遺憾ながら実際に繙いたこと
はない。そこで俳句に関してはづぶの素人を承知の上で、一

◆屠蘇

元旦に屠蘇を飲んで新年を祝う風習がある。屠は生きてい
るもの殺す、つまり「ほうむる」という意味で、蘇は死ん
だものが生き返る、つまり「よみがえる」という意味である。
屠蘇は屠蘇散または屠蘇延命散という漢方薬の名称に由来す
る。死者を蘇生させるほど強力な薬効があるという、白髪三
千丈式の誇張表現である。酒に浸して飲む珍しい漢方薬であ
る。

旧年が過ぎ去り、新年を迎える境目の時、つまり元旦を死
者の蘇生に擬(なぞら)えて、屠蘇を飲んで祝つた古代の儀式
が現代まで連綿と受け継がれているが、若い世代は興味を示
さず、次第に廃れていくようと思われる。

◆雜煮

雜は原則的に「ぞう」と読むが、雜煮、雜炊、雜巾などの
雜は「ぞう」と読む。雜用、雜務、雜事、雜種、雜草など、
雜を含む言葉は粗や劣というイメージを伴う。

雜の篆書体は、最初の「九」の字画が「衣」になつてゐる。
九の下の「木」と、旁(つくり)の「隹」の組み合せが「集」

になる。つまり雑は「衣」と「集」から成っており、色々な布を集めて縫つた衣服が雑の原義である。横文字ならばカラフル・ドレスと言い換える。ゆえに雑とは純の反対で、色々なものがごちやごちや混じつている状態を指すから、字源に基づいて解釈すれば、雑には粗や劣という概念は含まれていない。雑務は多種多様な仕事という意味だから、雑務が片端から手際よく処理できる人は有能かつ多才と評価できる。

雑煮や雑炊も決して「ざつな料理」ではなく、様々な食材を混ぜて煮たり炊いたりした料理である。余談だが、雑炊は増水が語源という説もある。水で量を増やした料理と解釈できるが、何だか眉唾臭い解説だと私は感じている。

◆七草

七草を「しちぐさ」と読んだ粗忽者がいるという笑い話がある。1月7日に七草粥を食べる風習がある。7種類の草を混ぜて炊いた粥だから、本質的には雑炊と同じである。七草粥には邪氣を祓う効用があると言っているから、最近脚光を浴びている薬膳、つまり食事と薬は同源という漢方医学の思想に基づいていると思われる。

芹、薺、御形、繁縷、仏座、菘、蘿蔔を春の七草という。せり、なずな、じぎょう、はこべら、ほとけのざ、すずな、すずしろと、すらすら暗唱できるが、やけに難しい漢字が登

場する。すずなは蕪に、すずしろは大根に相当すると言われている。

百人一首に「君がため春の野に出て若菜摘むわが衣手に雪は降りつつ」という光孝天皇の和歌が載っている。天皇自ら皇后のために春の七草を摘んでいる長閑な光景である。

◆大寒

1月20日の暦に大寒と書いてある。一年で最も寒い時期と解釈できる。日本人なら「寒い冬」と「冷たい水」は何の苦もなく使い分けられるが、英語には COLD の一語しかないから、cold winter と cold water としか訳せず、英語を母国語として話す人が日本語を習うと「寒い」と「冷たい」の二語の区別が困難なはずである。中国語は「寒い」を「冷」で、「冷たい」を「涼」で表現する。例えば「涼水」が「冷たい水」を意味する。中国語を習い始めた日本人は、最初に漢字の用法で面食らう。外国语を学ぶ場合には、ごく基本的な形容詞でも一筋縄ではいかない場合が多い。

「つめたい」は「爪・痛い」が語源という説がある。古語の爪は英語の NAIL の部分だけでなく、指紋のある部分も含めた指先全体を指していた。例えば「つまはじき」は指先で弾く動作である。故に「冷たい水」は指先が痛いと感じるほど温度の低い水と解釈できる。

◆立春

節分の豆撒きの翌日が暦の上では立春である。2月4日から春ですよと言われても、まだまだ寒い日が続き、暦の名称と季節感が一致しない。春の始まりを「立つ」と表現する。

「霞立つ末の松山ほのぼのと浪に離るる横雲の空」や「朝露の露もまだ干ぬ楓の葉に霧立ち昇る秋の夕暮れ」や「村雨濡れにし袖を干すほどにやがて夕立つわが袂かな」という和歌に、霞立つや霧立ち昇るや夕立つという表現がある。夏の午後に突然降り出す雨を夕立と呼ぶ。堀辰雄に「風立ちぬ」という題名の小説がある。

雨や風や霧などの天然現象が突然起ることを「立つ」と表現する。天に存在していて人智を超えた神秘的な力で忽然と起ころる現象を昔の人は「立つ」と感じていたに違いない。

つまり「立つ」は「突然」と「神秘的」という条件を備えた現象を指すと定義できる。余談だが、十二支では龍を「たつ」と呼んでいる。神秘的な怪獣が天から突然現れるから「立つ」に由来するという語源説がある。

実は陰茎の勃起も俗語で「立つ」という。突然起り、自分の意思とは関係なく、天からの神秘的な魔力で惹起される現象と、昔の人が感じていたと解釈すれば、やはり雨や風と同様に「立つ」と表現したくなるのが自然と思われる。卑猥

な俗語も歴史的な理論的根拠に基づいて分析できる。

囚みに陰茎の勃起を英語で ERECTION という。一字違ひの ELECTION は選挙という意味である。アメリカの大統領選挙を報じる英字新聞に、L と R を間違えて ERECTION と書いてあつた。大統領が「おつ立つた」……と訳せるが、恐らく英語通の日本人が創作した艶笑小咲であろう。

◆節分

私が子供の頃は各家庭で「福は内、鬼は外」と叫びながら炒つた大豆を撒いたが、昨今は神社やお寺で袴袴姿の年男が舞台の上から参詣人に縁起物を投げる年中行事と化したようである。幼稚園では鬼の面を被つた先生めがけて幼児が豆をぶつける遊びが節分の日の定番のようである。子供の頃に鰯の頭を刺した枝の小枝を門口に飾つた想い出もある。邪気を払うおまじないだが、今はすっかり廃れてしまった。

埼玉県の嵐山(らんざん)町に鎮座している鬼鎮(きじん)神社は、文字通り鬼が主祭神なので、節分祭では「鬼は内」と唱えるそうである。何にでも例外というものがある。

鬼は想像上の存在で、虎の皮の褲(ふんどし)を穿いて、鉄棒を手にしている絵がパターン化されている。「かなぼう」は金棒とも鉄棒とも書く。鬼は「仕事の鬼」や「土俵の鬼」のように、あるひとつの事に精魂を傾ける人の比喩として使わ

れ、また成句や慣用句にもよく登場する。

鬼に鉄棒

鬼の霍乱

鬼が笑う

鬼の空念佛

鬼の目にも涙

鬼の居ぬ間の洗濯

鬼が出るか蛇が出るか

鬼も十八、番茶も出花

などは若い頃から耳に慣れ親しんでいる。霍乱(かくらん)は現代語の熱中症のような疾患を指し、鬼の霍乱は、普段は極めて健康な人が珍しく病気に罹る譬えとして使われる。因みに中国語では酒鬼(酒乱)、賭鬼(ギャンブル狂)、鬼法(いんちき)、鬼話(嘘つき)、鬼計(悪だくみ)など、鬼が悪いイメージで使われており、同じ漢字でも日中間で語感や用法に大きな違いがある。

◆如月の望月の頃

西行法師は平安後期の僧侶で歌人でもある。820年前の文治6年(西暦1190年)2月15日に72歳で没した。「願わくば花の下にて春死なんその如月の望月の頃」という和歌を詠んでいる。如月は2月、望月は陰暦で満月の晩、つまり15

日である。2月15日に死にたいと言つて、ぴたりとその日に死んだ。まことにお見事……と古典の解説書に書いてある。「花の下にて」の花は2月だから梅かと思われる。

◆東風

二月と言えば受験シーズンである。学問の神様と呼ばれる菅原道真を祀った天神や天満宮と呼ばれる神社は合格祈願の受験生で賑わう。「東風吹かば匂い起こそよ梅の花主無しとて春を忘るな」という道真の和歌がよく知られている。藤原勢の陰謀によって京都から九州の大宰府に左遷された時に詠んだ和歌である。

「東風吹くと語りもぞ行く主と従者」という太祇の俳句がある。東風の吹く良い季節になつたと主従二人連れが語り合ひながら歩いて行く。主を「しゅう」と伸ばして読み、従者を「ずさ」と縮めて読む。東風(こち)という古語の宛字読みは、道真の和歌のお陰で意外によく知られている。東には東屋(あずまや)、東風(こち)、東雲(しののめ)などの他に、人名の東海林(しううじ)や地名の国東(くにさき)半島という宛字読みもある。

※ ※ ※

睦月と如月の話題を選んで駄文を綴つてみた。この調子で

書き進めていくと、師走の話題が登場するまでにあと何。へー
ジくらい必要だらうか。山のような雑ネタを集めて続編を寄
稿したいと夢見ている。

実は自作の川柳を披露するのが本稿の主たる目的である。

冒頭で「駄句を披露いたします」と書けば、僅か数行で終わ
つてしまい、随筆の態をなさない。そこで江戸時代の俳句を
冒頭に掲げ、英語や中国語の話題も織り交ぜながら延々と遠
回りをした挙句に、日頃から雑記帳に書き溜めておいた川柳
の中から何句か選んで最終段落で披露するという突飛な構想
を練つてみた。

随筆欄か川柳欄か掲載の分類に迷いそうな、字義通り雑な
文章である。

七草をすらすら唱えて粥食わず
手作りの賀状の版画猫に見え
層蘇おせち雑煮の後で胃腸薬
熱燗の似合う炬燵で缶ビール
外国勢上位独占でも国技
仕分けなら俺に任せろゴミ出し日
値下げして大渋滞でネを上げる
金食わぬ高速道で時間食い
ダム工事途中でやめればムダ工事

鬼は外貧乏神は出て行かず

老いてなお右肩上がりチョコの数

懐は三寒四寒で春迎え

聾煩せず片つ端からエコ冠し

ワクチンの終わる頃には花粉症

内閣は何故か短命長寿国

今日もまた酷暑で始める日記帳

角界は野球賭博で熱中症

お相撲さん髪を切つたらただのデブ

秋深し隣は禁煙する人ぞ

百歳を超す統計は死者誤入

戸籍簿に江戸のミイラも載つており

古女房お酌が巧くて酒旨し

太鼓腹性格的にも太つ腹

メタボ老人腹も背中も丸くなり

体重計そつと乗つてはさつと下り

飽食を粗食に変える老いの智恵

馬肥ゆる秋にはしないダイエット

吉岡弥生賞受賞の姉

野澤良美を偲ぶ

小川昭子



今から五年前の平成十七年、私の姉、野澤良美は第五十回日本女医会総会において、名誉ある吉岡弥生賞を受賞しました。二十数年前から取り組んできた病児保育への努力が評価されたものであります。この姉とともに始めた「すこやか病児保育室」のことを総会において、思い出のいくつかを綴つてみました。

すこやか病児保育室

亡き姉夫妻と開業以来、昨年で五十年になりますが、それを目前に姉が死去し、とっても残念です。平成三年のことです。開業三十年を機に、地域医療に貢献できることに感謝しながらも、医療以外に何かお役に立ちたいと考えました。姉



夫妻と私三人は泊江市の幼稚園、保育園、校医などに長年携わっております。この間、子どもが病気のとき、お母さまたちを度々見ておりました。そこで、病児保育の必要性を痛感、市の後押しもあって開室を決意しました。

その頃、姉は日本女医会の副会長という名誉あるお仕事を務めておりました。当時は、子育て支援に行政の後押しも必要でした。

姉は厚生労働省やこども未来財団などへの訪問、病児保育協議会の総会、研修会へと猛暑の中、汗だくなつて動き回つていた姿を思い出されます。私はいつも留守番役で、申し訳なく心を痛めておりました。

開室した「すこやか病児保育室」は、関東・中部地区では第一号でテレビや新聞、雑誌の取材の追われる日々でした。

また保育室の新設を目指される先生方が、北海道から沖縄まで各地から見学に来室されました。あるとき、保育士、看護師、市の職員らが観光バスで来られビックリしました。帰られた後で「よく床が抜けなかつたわね」と、しばらく笑い話

が続きました。こうした見学の方々にも、笑顔を絶やさず微細にわたつて説明していた姉でした。几帳面で曲がつたことが嫌いな反面、深い心の温かさの持ち主でした。

月日の流れは速く、はや二十年が過ぎました。この間多くの先生方の親切な支援を頂きました。帆足先生ご夫妻、坂先生、九州の藤本先生には心温かいお気遣いを終わり、改めて御礼申し上げます。医師となつて六十年、大学に出講して五十年、そして病児保育にも努力した姉、立派な人生だつたと思います。

「あきこちやま、留守をお願いね」と片えくぼの笑顔で声をかけてくれることは、もう二度とありませんが私の心中に永久に残り「お姉さまいつまでも見守つていてね」とつぶやきながら、私にやさしい甥家族と姉の遺した医院と、すこやか病児保育室を継続してゆく決心で日々を過ごしております。

（病児保育研究 創刊号より抜粋）

働くママたちから感謝されて

ことし七月十八日、十九日の二日間にわたつて東京ビックサイトで開かれた全国病院保育協議会発足二十年の年大会の折、私は感謝状を頂きました。診療所を増築して始めた当初の頃の数々を思い出しながら、病児保育の益々の発展を祈りつつ帰路に着きました。

仕事を持つ女性にとって最も大きな課題は育児との両立です。昨今の長引く不況で、子育てから職場に復帰しようとしたお母さんたちにとって、児童を預かってくれる保育園探し大仕事です。地域での待機児童数が絶望的な状況なのが現実で、ましてや病児を安心して任せられるところは……このような思いで病児保育に取り組んでいますが、スタートしたのは一九九一年七月です。

保母は市の紹介でベテランに依頼、障害者研究所に勤務していた姉の長男和弘を施設長に、「まず快適な温度、湿度、採光、陽当たり、換気など環境衛生や安全性などの基本条件」に気を配りました。さらには子どもらの声が“騒音”となつてご近所の迷惑にならないように三重窓にしたり、緊急時の避難場所も整えたりしました。どこにもお手本があります。試行錯誤を重ねて、設備を改善していきました。小さくとも理想に合つたものをと願つたのです。

最初はボランティアの精神で、病児の保護者から利用料を貰つつもりはありませんでした。ところが、この活動が市議会の目にとまり、光熱費や人件費の一部を市が財政援助すると申し出がありました。さらに地域からのニーズが高いこの仕事を市の事業としていきたいという提案があつて、受け入れることにしました。そこから利用者負担金（現在は1日、2000円）をいたしております。

開室日は月曜日～土曜日（祝祭日をのぞく）。時間は午前8時～午後6時まで（土曜は午後2時）。診察の上、入院を要する重症の疾患は入室できませんが、隔離する体制があるので、風邪などの感染症や伝染性疾患でも入室できます。利用するためには市の登録が必要ですが、緊急の場合には直接、保育室でも受け入れられるようになっていて、年間で平均900人近くが利用しています。



姉（右）と並んで診察する筆者（取材のTVから）

族のケアも姉と二人三脚で、寄り添つてやつてきました。姉は日本女子大付属高校英文科コースから、帝国女子医専へ進み、病理解剖実習では悲鳴をあげ、注射を見つては貧血を起こす医学生でした。研修時代に女子医専が焼け新潟へ疎開。老人と女性医だけの銃後の病院で外科手術も行いました。戦争の終わる45年に卒業、東大の医学部衛生学教室に入局、女性第一号でした。その後、お茶の水三楽病院内科勤務時代には、アメリカ医療の効率よい検査法に触れたそうです。

負けず嫌いの性格で、外来の合間にアテネフランスに通い好きな語学を学び、院長室で通訳もしました。臨床終了後に東大で研究。56年に学位、その後も研究と臨床に務めていました。

58年に開業。当時は診察代がなくて野菜を持ってくる人、子沢山のため黙つて支払わない人、そんな時、逆にお菓子を運んだこともあります。「医者は肉体労働者」が口癖で、家族や妹の私と一緒に楽しく努めていました。学生時代からの趣味であるマンドリンやレース編み、クラシック音楽鑑賞もお休みで、山脇学園短大教授や日本女医会副会長を務めました。15年ほど前、軽いくも膜下出血で倒れました。予後は順調、私と一緒に働いておりましたが……。姉の遺志をがなくなつた。安心して働ける」と感謝されています。

姉の遺志を引き継いで

私は、診療や保育、往診や学会などの対外的なことも、家

継いで、私はこれからも病児保育に励んで行きたいと思つて

その後の二人

——三高配属将校殴打事件

小川再治

私はリベラルな旧制成城高校で、小生意気な反戦派バンカラ学生だったが、某三高OBの方の「平安三里に」という三高生活回想の本を読み、京都の三高は成城以上にリベラルだったことを知った。三高には関西の秀才が集まっていたが、反戦・厭戦派が多かつた。ところが不運なことに、当時の三高に乱暴でミリタルな配属将校がいて、学生の恐怖、あなどりの対象だった。

教練の時間に学生達が将校の集合命令をわざと無視し、ざわめいている数人の学生がいた。激昂した将校はそのうちの一人のAを引きずり出し、サーベルでAが“死んだ様に”動かなくなつても、なお殴り続けた。

その時、下級生のBが、「馬鹿野郎」と叫びながら飛び出して来て、持っていた銃で将校を殴り飛ばしてしまった。

この事件の後、殆んどの学生が学校に「Bを放校しないで

下さい」との嘆願書を出したが、Bは放校され、京都から消えた。

A・Bとも私に似た世渡り下手の反骨人に思え、私は二人に深い同情と共感を覚えた。そして、その後のA・Bの消息を知りたくて、三高同窓会に私信で問い合わせた。数日後、会の代表の九〇歳の方から返信があった。そしてこれが昭和十七年に起きた、当時有名だった「三高配属将校殴打事件」であつたことを知つた。

Bと同様な反戦高校生だった私には、とても彼の様な勇気はなく、高校時代はせいぜい配属させられた軍事工場から、たまに脱走する位だった。Bのやさしく勇ましい義侠心には感服する外はない。身を亡ぼしてまで、友人の命を救おうとしたのだから。

同窓会代表の方から、戦後三高同窓会への参加が認められたBの、OB会でのスピーチがホームページに残っていることを教えて頂いた。しかし八十四歳の私はホームページは使えないで、甥に解説して貰つた。甥が読み上げながら、時に涙声になるのに気付いた。

Bのスピーチの概要を記そう。

「将校の暴行を見ている内に、我慢出来なくなり、飛び出して行つた。将校を殴つた時、これで俺の三高生活は終わつたと思った。仙台に移り東北大に入りなおし、仙台の高校教師

になった。反骨心が強いので組合活動に没入したが、警察に捕まってしまった。その時職員から、「是非会いたいという方がいる」といわれ、ついて行つた所、Aが待つていた。『いよいよ。君がその後どうしているか心配して探していたぞ』と言われ、感激極まる再開をした。Aは出世街道を歩み、仙台に職を得ていたのだった。

その夜、二人で料理屋で遅くまで、二人のその後の人生を語り合つた。その後二人とも東京に移り、Aは次々に要職に移つて行つたが、自分は高校定年の後は、しがない中小企業で働いていた。でも、度々Aの家を訪ね、大歓迎を受けた」とスピーチを結んだ。

恐らく三高O・Bから、大拍手を受けたであろう。散会前には、一同で寮歌「紅燃ゆる」を熱唱し、ノスタルジアに浸つたそ�である。AとBの奇跡的な再会は、まさに大団圓だったと思う。遙かに私より若い甥の涙を見た時、私の深い感慨は、言葉に現わせないものだった。

現在の私はA・B両氏とのコンタクトを得たいと努力中だが、未だ何の手がかりも得られない。お二人とも天に召されてしまつたのだろうか。

次の「冬季号」は各部イベント特集です

今年度は、毎年春だつた医家美術展が秋に繰り下がり、洋楽部のコンサートをはじめ書道展、写真展、邦楽祭と10・11月に集中しました。写真展の最終日がコンサートの日、引き続いての週が書道展。「東奔西走」というよりも“右往左往”でした。とはいっても、出品者や出演者ら関係者一同の努力で、内容は素晴らしいものです。

ぜひ“隅から隅まで”“ずっと”お目を通してくださいほか、イベント報告の部分はオールカラーですので、ご自分の記念にもお買い求め頂ければと存じます。

原稿締め切り その他の原稿は12月25日。医芸俳壇・歌壇・柳壇は1月8日とさせていただきます。ご協力をお願いします。

◇前号の訂正 目次「ほん」の評は 江川政昭氏の誤り。透視像の題・逢阪は逢坂、計報・沼口先生の行年は92歳でした。お詫びして訂正致します。

荻窪、清水町界隈の思い出

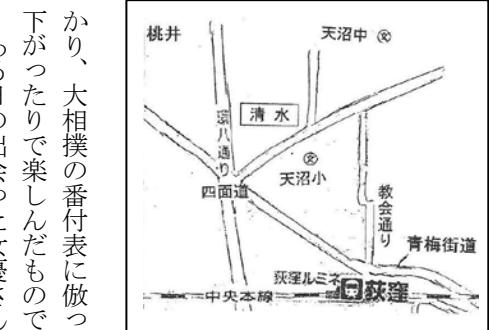
（天瀬裕康氏の「壊滅の譜」を拝見して

村山正則

昨年度の医家芸術文芸特集号で、渡辺晋先生（天瀬裕康）の作品、レーゼンナリオ「壊滅の譜」で薄田研二夫妻と広島で亡くなられた御子息の記事を拝見した。“薄田研二”——戦後の新劇界・映画会で名声を博した演劇人であった。

薄田研二御一家とは私の学生時代の戦後七年間、お世話になつていた住宅が荻窪清水町でお隣同士であった。現今もそつたが清水町界隈は静かな住宅街で、井伏鱒二、片岡鉄平、二・二六事件の渡辺錠太郎大将の住宅を始め、著名文化人が多く住んでおられた。

薄田さん宅は門柱に「高山徳右衛門」と大きな門札がかかって、薄田さんの主宰する「新劇團」の拠点的事務所になつていて、当時の著名な俳優さん、演劇人が出入りしていた。高山さん（薄田さんの本名）宅は、御夫妻と薄田さんの妹



さん夫婦（脚色家神田重隆氏）と、薄田さんの長女つま子さん（女優）が同居されていて、薄田夫人はやさしい柔軟な方で通称ママさんと呼ばれ、倉田百三の元夫人ときいていた。神田夫妻は麻雀がお好きで、訪れる俳優さん達と度々卓を囲んでいた。メンバー不在の時は隣りの私にもお声がかかる、大相撲の番付表に倣つて、その日の成績で上がつたり下がつたりで楽しんだものであつた。

ある日の出会いた女優さんとのゲームで、「まだ点数の計算が出来ませんのでよろしく……」と言うと、「医学生のお医者さんの卵が今からそんな細かい計算などしなくて好いのヨ、私がみてあげるワ」と言つてくれたのは、若き日の杉村春子女史であつた。以来、私は麻雀の点数は人任せにして今日に至つてゐる。

隣同士の境はコンクリートブロックといつた無粋なものではなく、生垣の戸を開けると往来の出来る親しさがあつた。俳優座創設の千田是也氏（本名伊東園夫）も来られていた。神田夫人から、千田氏の芸名の由来をきいたことがあつた。



昭和の名残りを残す清水町の一角に今も残る旧薄田研二氏の住まい

—— 関東大震災の頃、当時、朝鮮人の暴挙の噂の拡がる千駄ヶ谷付近を歩いていたら、朝鮮人と間違えられて警護の人たちに捕らえられ、厳しい訊問の恐怖が忘れられず、後年「千駄ヶ谷」と朝鮮人（コレア）の強烈な印象から「千田コレア」とされたのよ……という話が今も印象に残っている。

—— 毎日の荻窪駅への往復の道に井伏鱒二氏の住宅があつて、生垣越しに当

六十歳位の和服の井伏さんが、縁側で棋盤を前に鎮座される姿、釣桿の手入れに余念のない御姿を見かけたものである。

戦後、カボチャ畑になつていた井伏さん宅のお庭もいつしか

散策の場に代わって、訪れた文士と語られる光景も印象に残っている。

昭和二十年代前半の時代、ラジオ放送で人気のあつた「三十の扉」に出演されていた医師であり画家の宮田重雄先生が、放送をすまされて家族の方と談笑されながら、わが部屋の横の道路を帰宅される夜の思い出も残る。

荻窪駅前から教会通りと称された狭い路地には居酒屋が並んでいて、和服の井伏鱒二さんが文士や出版人たちと出没されていた夕方の光景もなつかしい。戦前戦後のこの路地での挿話は、井伏さんの「荻窪風土記」に詳細に書かれている。

私の予科 学部を通しての七年間の荻窪清水町界隈は、上京の機会に時折り訪れてみるが、すっかり近代化された青梅街道、四面道周辺の風景は当然のことながら当時の面影は姿を変えているが、清水町住宅街の家並み、あの道、この道の光景は今も昭和の名残りをみせて、静かな時間が流れている。

一羽のカラスの対話

生きているのは確かです。これではこの小さな地球を消耗してしまうのは当然かもしれません。

人間の不幸はそれよりも、人間 자체の内部にあるような気がします。つまり、人間社会のなりたちが本来の人間という生物から完全に離反してしまつていいでしょうか。



A B A

記録的な暑さで人間は完全に消耗しています。いや人間だけではありません。私たちだって大変です。

この異常気象が人間自身の悪徳のせいで、起こっているのではないかと不安にかられています。

確かに人間は地球の温暖化に悪の手をさしのべていますが、この異常気象が人間だけのせいかどうかは疑問です。人間は自分たちに都合のよい文明の発展だけを目標に

B A

A

B

たとえば人間の家族構成などをみると、家庭は完全に崩壊し家族の組み合わせは失われてしまいました。若い人は結婚しないし、結婚してもすぐ離婚してしまいます。子供たちは寄る辺が無く保護者も教育者もいません。子どもを生んでも親がまともに育てる事もなく、放置し、なげやりにしています。

子どもも親の面倒をみると、入院しても病院に駆けつけるでも無く、死んでも弔いもせずに放置しています。遺骨は宅急便であの世へ送られてるそうです。そのくせ年金だけはちやつかり貰つて、生活費に当てているというのですからあきれたものです。

日本中で四万人も百歳以上の人があるそうですが、百歳万歳などといつている人は、ほんの数えるほどなのです。いくら生きていっても仕方がないのに、長寿が幸福であるという幻想にとりつかれて、生きよう生きようとしてい

生きているだけです。

生きているだけで不幸と絶望のふちに立っているのが人間なのです。

B A

政治も経済もいかにも人間を幸福にできるような気がしていますが、まったく不可能です。いくら理想論を説いても、いくら立派なマニフェストを掲げても、そんなにうまくいかないのです。

文明も科学も人間を幸福にするどころか不幸と絶望の地獄につきおとしているのです。

人間全体が悪質化してしまったわけですから、どうしようもないのです。人間は精神構造が完全に腐つてしまつたのです。自由主義と民主主義という悪魔に心を蝕まれて発狂してしまつたのです。

人間はもう救済しようがないのです。人類が近未来に滅亡するのは確実です。もうこうなつたら、最も自然に生きているわれわれカラスによる地上制覇をはたさなければなりません。

カラスは全身黒く一点の曇りも無い純粹に自然な生物です。そして自然のおきてにしたがつてまともに生きている地上最高の生物という誇りをもつて生きていいくことにしましよう。

ああ、漆黒のカラスの世界に栄光あれ！

表紙の言葉

「縄文の夜」 鈴木 啓之 (川口市)

今秋の第58回日本医家美術展に向けて描いたF20号の油彩画である。いまから4500年ほどむかし、日本全国にたくさんの部落が点在していた。月光が皓皓と冴えわたる満月の夜、そんな部落のひとつで祈りの儀式が行われている。ひとつとは部落の広場に祭祀の壺をならべ、素焼きの香炉に神の火を灯し、車座になる。輪のなかで袖の長い装束に身を包んだ女性の呪術師が踊る。腕を振り上るたびに長い袖がひらひらと舞う。豪放奇怪な飾り文 尽きぬロマン 縄文の祭りの夜 様をほどこされ壺は炎を映して赤くそまる。そんな光景を思い浮かべながら絵筆を走らせた作品である。

縄文時代中期に、過剰気味の造形がほどこされた、頭でっかちの壺が出現し火焰型土器と称される。この土器は信濃川の上・中流域から出土し、その地に大きな文化圏が存在したことを示す。八ヶ岳の南麓からは、流麗な渦巻文様の水煙型土器、縄文のビーナスと呼ばれる土偶、三角形の仮面をかぶる土偶、火の燃えた跡が残る香炉型土器などが出土する。諏訪盆地から松本平、八ヶ岳山麓をへて多摩丘陵にいたる広大な地域には別の文化圏が存在した。縄文の世界に思いを馳せると、尽きないロマンが頭のなかを駆けめぐる。